

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立春日小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的生活習慣、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

Ⅰ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(Ⅰ) 結果

※「当てはまる」「どちらか言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「**どちらか言えば当てはまる**」と**肯定的に**回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	76.7%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	84.9%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	74.0%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	83.5%	84.9%

「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目は、全国平均よりもやや低い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	13.7%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	16.4%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	28.8%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	26.0%	27.4%
「30分より少ない」	9.6%	12.9%
「全くしない」	5.5%	5.7%

家庭学習については「1時間以上、3時間より少ない」児童が全国平均を上回っていますが、1時間未満の児童が3割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。

(Ⅱ) 改善に向けての取り組み

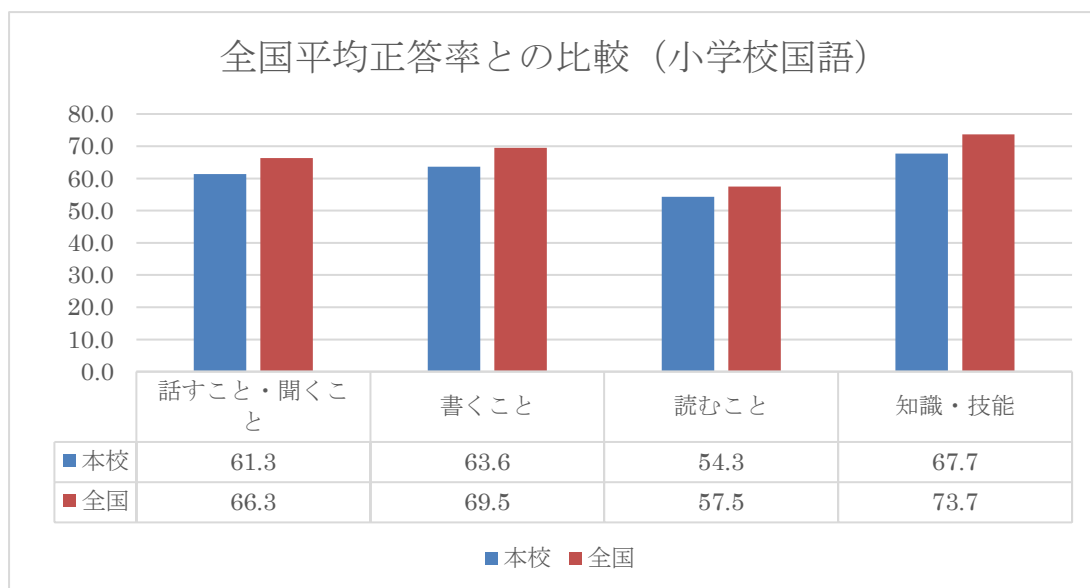
【学校では】

- 主体的な学びができる児童の育成を目指し、単元で身に付けさせたい資質・能力、単元全体や本時のゴールを教師と児童が共有し、児童が見通しをもって主体的に学びに向かえるように取り組んでいます。
- 児童が「わかった」「できた」と喜びを感じる授業づくりを展開するために、意図を明確にした必然性のある伝え合いや深め合い、思考を表出させる発問や学習活動を仕組んだ授業研究に取り組んでいます。
- 児童が安心して「話し」、温かく「聴く」ことができる学級づくり、授業づくりに取り組んでいます。
- 学校行事等での児童の出番を設け、その頑張りを褒めたり認めたりする機会を増やしていきます。

【ご家庭では】

- お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わる大切です。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや学習の目的などを参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。
- ご家庭でも、お子さんの興味のあることや得意なことに挑戦させ、大いに褒めてあげてください。

2 国 語



(1) 結 果

全ての領域で全国平均正答率を下回っています。また、無解答率をみると、後半の問題で全国平均よりも高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、選択式の問題では、全国平均とほぼ同等か、それを上回る正答率の問題もありました。漢字を書く問題は、日頃から漢字の練習に励んでいる成果も出ていました。ただ、同訓異義語の漢字（あつい…熱い、暑い、厚い）の問題は正答率が低かったです。意味まで理解して覚えていくことが大切です。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 52.7%は、全国平均正答率 58.8%を下回っており、苦手になっている児童が多くいます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

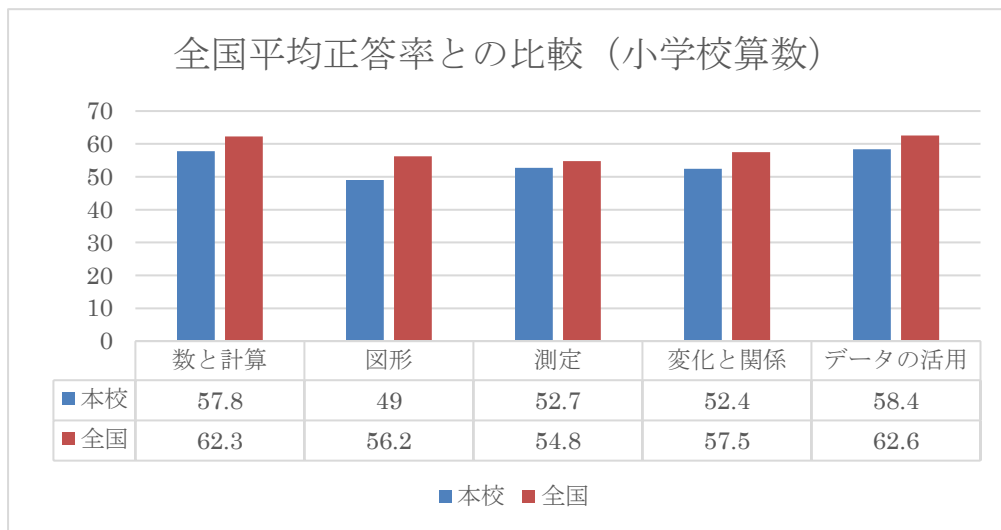
【学校では】

- 子どもが「話したい」「聞きたい」と主体的に学べるように、単元計画や言語活動を工夫した授業づくりに取り組んでいます。
- 授業の中で、自分の考えをじっくり書く時間を確保し、思いや考えを伝える場を設定することで、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。

【ご家庭では】

- 全学年、毎日の宿題で音読を出しています。音読を継続することで、文のつながりや構成がわかったり、語彙が増えたりして、書かれている文章をイメージすることができるようになります。文章を読み、そのイメージをもつことができることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。多くのジャンルの本をたくさん読むことで、語彙力を高め知識の幅が広がります。ご家庭でも、お子さんと一緒に読書に親しんでください。

3 算数



(1) 結果

全国平均を下回る結果でした。全ての領域で全国平均を下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「測定」の領域では全国平均をわずかながら超えている問題が見られました。「図形」の領域が全国平均を大きく下回っており、作図や多角形の面積を三角形や四角形の面積の公式を用いて求める問題を苦手としている児童が多くなります。また、文章を読んで「題意をとらえる」ことや「必要な情報を読み取る」ことにも課題がみられます。

児童質問では、算数については、「算数の勉強が得意ですか」「算数の勉強は好きですか」の項目で 3 割の児童が当てはまらないを選択しており、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の項目で 2 割の児童が当てはまらないを選択していました。児童が意欲的に学びに向かえるように、教員の授業力の向上に努めていきます。

(3) 学力向上のための取り組み

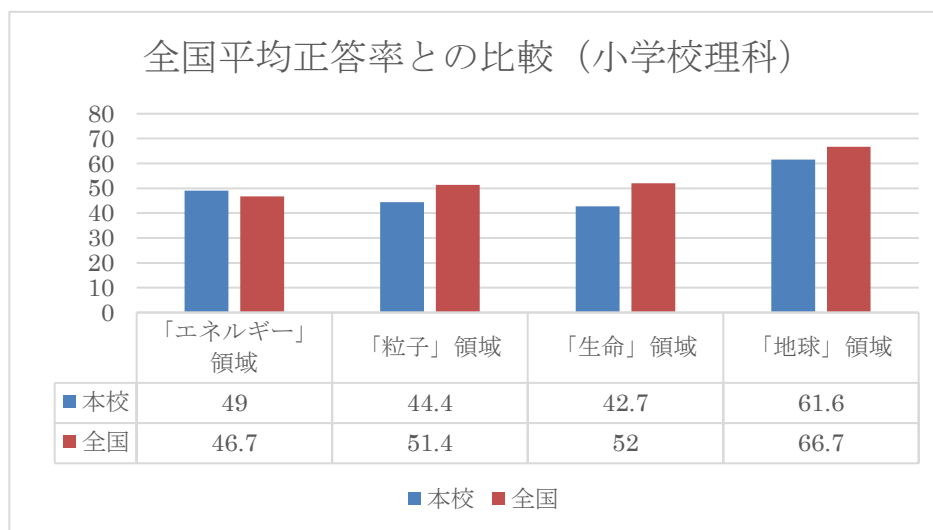
【学校では】

- 題意を把握するために、文章を読んで必要な情報に線を引いたり、図式化して問題のイメージをつかんだりする活動を授業の中に取り入れていきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、友達と話し合う活動を取り入れています。友達の考えを受け入れ、どのように解いていくかを考えさせたり、話し合わせたりする学び合いの充実を行うことで、さらに考えを深めさせます。

【ご家庭では】

- 日常生活の中には、学習した算数を活用できる場面（買い物や料理、時刻等）がたくさんあります。ぜひそういう場面でお子さんに声を掛けていただき、算数の学習が日常生活の中で役立つことを実感させてください。
- お子さんのノートや学習プリント、テストなどをご覧になってください。ほめてくださったり、励ましてくださったりすることで、子どもたちの頑張りにつながります。

4 理科



(1) 結果

全国平均を下回る結果でした。しかし、領域ごとに見ると、「エネルギー」を柱とする領域では、全国平均を上回る結果でした。また、無解答率を見ると、ほとんどの問題で全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「身の回りの金属が電気を通すか、磁石に引き付けられるか」「電流がつくる磁力」「乾電池のつなぎ方」の知識・技能の問題が全国平均正答率を上回っていました。授業の中で、実験を通して学んだことがしっかりと身に付いています。一方で、「生命」を柱とする領域では、全国平均正答率を大きく下回っていました。ヘチマの花のつくりについての問題でしたが、発芽するために必要な条件を調べる実験において、条件を制御した解決方法を選ぶ問題が、13 ポイントも下回っていました。実際に植物を育てながら観察して学習することで、知識の習得や思考力の向上につながることを再確認しました。

児童質問では、理科については、「理科の勉強が得意ですか」の項目で8割の児童が肯定的な選択しており、「理科の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」の項目で9割の児童が肯定的な選択していました。これからも、児童の意欲的な姿勢を大切にしていきます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。